

公表:令和2年2月7日

事業所名 どろんこきっず

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか			●		人数に対して活動スペースが狭いので、怪我や事故に特段に配慮する。
	②	職員の配置数は適切であるか	●			急な職員の休みにも対応できる人数を配置している。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか		●			玄関や荷物を置くスペース等を使いやすい様に改善する。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか		●		・毎日掃除はしているが、建物の古さ故に仕方がない部分もあるのかなと思う。 ・遊びがダイナミックで生活空間が狭いとは感じるが、その中で考え遊んでいる。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	●				
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	●			・連絡ノートや送迎時での話等で現状を把握し、改善に務めている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	●				
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		●			
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	●			・全体研修、勉強会、外部研修等があるので研修の機会は多いと思う。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	●				
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	●				
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	●				
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	●			・その日の子どもの状態に応じた支援を選択している。	
関係機関や保護	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	●				
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	●			・OTが個々の子どもに合った遊びを考え、提供している。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	●			・全休とSIの目標を月に一回見直し、支援計画を作成している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	●			・積極的に職員間のコミュニケーションはとるようにしている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	●				
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	●			・日程案、個別の日誌を記入している。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	●				
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	●				
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	●			・必要に応じて連携し、他機関との共有を図っている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	●				

者との連携機関や保護者との連携	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	●				
	②⁵ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	●			必要に応じて保育所等訪問支援を提供し、アドバイス等を行いながら連携を図っている。	
	②⁶ 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	●			・卒園の際には引継ぎ書を作成し、学校に提出している。	
	②⁷ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	●				
	②⁸ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がない子どもと活動する機会があるか		●			保育園、幼稚園に通っている子が多い為、交流する機会は設けていません。
	②⁹ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	●				
	③⁰ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	●				
	③¹ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレン特レーニング等）の支援を行っているか		●			ノートや電話での相談に応じたり、今後の育ちの見通しを見ながら今の課題についてお話をていきます。
保護者への説明責任等	③² 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	●				
	③³ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	●				
	③⁴ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	●			・年に2回、懇談を行い、連絡ノートや直接話しを聞く等、必要な助言を行っている。	
	③⁵ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	●				
	③⁶ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	●				
	③⁷ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	●				
	③⁸ 個人情報の取扱いに十分注意しているか	●				
	③⁹ 障がないのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	●			・送迎の時に直接話したり、電話、連絡ノート、手紙等の手段を取っている。	
	③⁹ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		●			
	④¹ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	●			・緊急時のスタッフの配置、マニュアルの作成、訓練等、年2回ほど行っている。	
非常時等の対応	④² 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	●				
	④³ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	●			・子どもの利用前に確認し、スタッフ間で共有をしている。	
	④⁴ 食物アレルギーのある子どもについて、示書に基づく対応がされているか 医師の指示に基づく対応がされているか	●				
	④⁵ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	●				
	④⁶ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	●				
	④⁷ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		●			

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。